

経営比較分析表（令和6年度決算）

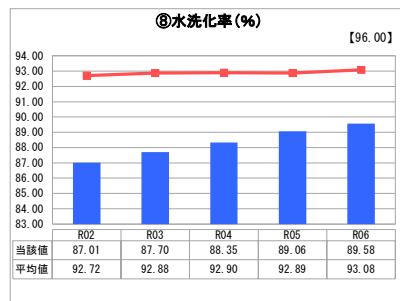
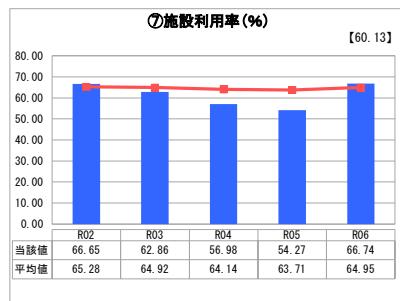
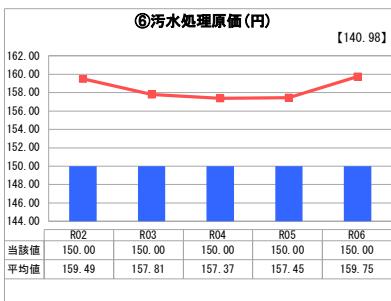
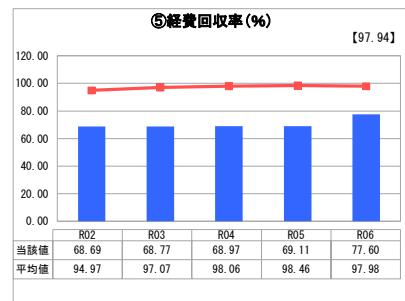
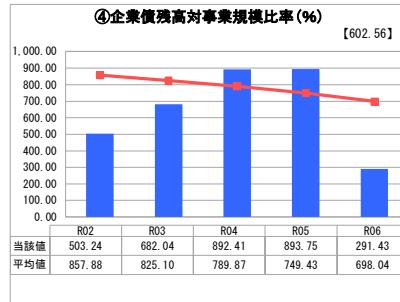
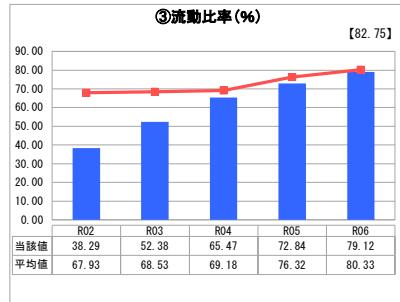
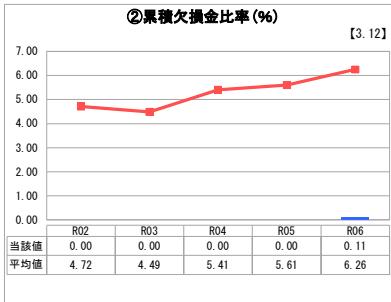
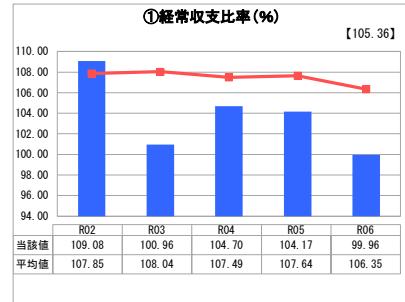
群馬県 伊勢崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.34	36.80	80.29	2,453

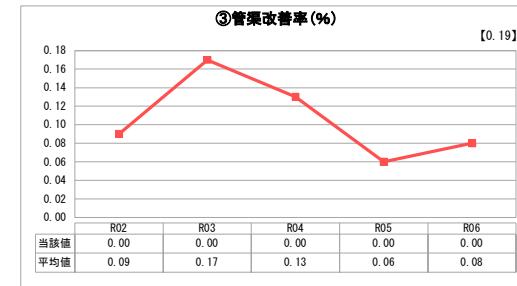
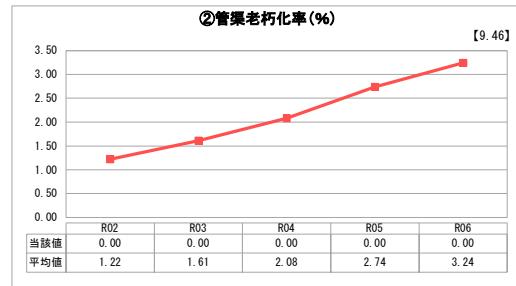
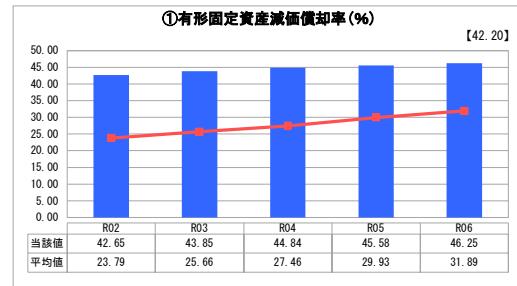
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
212,084	139.44	1,520.97
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
77,888	18.87	4,127.61

グラフ例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度より地方公営企業法の適用を開始している。

①使用料改定を実施したものの、これに伴う基準外線入金の減少等により単年度でわざかに赤字を計上している。これに伴い、累積欠損金がわざかに発生したが、依然として低い状況である。

③100%未満であるが、流動負債には建設改良費等の財源に充てられた企業債を多く含んでいる。

④一般会計からの負担増等により減少している。

⑤使用料改定により上昇したものの100%を下回る状況であり、使用料収入だけでは、汚水処理費を賄えていない。

⑥平均値より低い状況であり、効率的な汚水処理が行われている。

⑦平均値より低い状況であり、下水道の整備を進めるとともに接続を促すことにより、流入量を増やす必要がある。

⑧平均値より低い状況であり、引き続き接続促進に努めている。

(2)課題に対する今後の取組等

類似団体と比較すると、汚水処理原価が低いことから効率的な汚水処理が行えている。一方で、水洗化率が低く、使用料改定はしたものの使用料収入が十分に確保できていないため、経費回収率は低い。このため、今後も段階的な使用料改定を行い、収入増加を図るとともに、施設稼働の最適化も踏まえ、効率的な下水道整備や下水道への接続促進に努める。

2. 老朽化の状況について

(1)各指標と現状の分析

①平均値より高い状況であり、各資産の老朽化状態を考慮し、処理施設の更新と管渠の新規整備への投資を進めている。

②(3)令和6年度末まで管渠の更新は行っていない。

(2)課題に対する今後の取組等

類似団体では管渠の更新が始まっているが、今後は資産台帳等を活用し、計画的な管渠の更新を予定している。

全体総括

(1)各指標と現状の分析

使用料改定を実施したものの、公共下水道の維持管理費は、未だ下水道使用料で賄えていない状況だが、汚水処理原価の平均値との比較から効率的な汚水処理は行えている。また、施設利用率や水洗化率の平均値との比較から、水洗化率を向上させ、下水道整備により施設利用率の改善を図る必要がある。

(2)課題に対する今後の取組等

本市の下水道処理人口普及率は36.8%であり、全国平均の81.8%を大きく下回っており、いまだ整備途上にある。人口が集中する区域への下水道整備を進めるとともに、整備区域内の接続を促進し、施設利用率の向上を図る。令和6年度使用料改定を行ったが、今後も段階的に改定を進めることにより下水道事業の健全で持続可能な経営管理に努めていく。